

# 学校週五日制はじまる！

## 新たな学校・家庭・地域の連携のあり方

8月17日(土)、中央公民館において「学校週五日制はじまる！新たな学校・家庭・地域の連携のあり方」というテーマで、第5回播磨町教育フォーラムが開催されました。

### 基調講演

最初に神戸大学発達科学部教授の末本誠さんから基調講演がありました。

#### 子どもと地域・家庭・学校

かつて、子どもの生活領域として「労働」・「遊び」・「生活の諸活動」、そして「学習」があつて、初めて生活の全体をなし、子どもらしく一人の人間として生きていくという理解がありました。

しかし、今や子どもから労働がなくなり、遊びの時間を失い、生活の型が崩れ、学習のみが重要視される社会情勢になっていきます。

学校週五日制は、子どもの成長発達に歪み崩れてきているという問題



神戸大学発達科学部教授 末本 誠さん

があるところから、見直されている条件となつていくのです。

子どもにとって、自分が大切に思われている、肉親や身近な人との人間関係において、そこで守られているという安心感が小中学校期には決定的に必要です。

ところが、家庭ですら人間の能力を点数化した価値観が広がっているため、子どもに自分の可能性を見出し、何かをやるうという気持ちを育てる体制とか条件がなくなつてきているのです。

本来、学校の役割には、知的な教育が期待され、人格の面は地域や家庭が受け持っていました。それが、いつの間にか学校の地位が重くなり過ぎていくのです。

学校週五日制というのは、そのアンバランスをどう考えるか、家庭や地域社会の機能をどのように回復していくかという問題でもあります。

#### 学校週五日制実施後の地域

学校週五日制というのは、学校の役割は五日で、残りの二日は学校以外の子どもの時間である。学校以外の時間は地域社会の時間であると考えざるべきです。学校以外で子どもにかかわる当事者は、多様であるという見方をしなければなりません。

地域では、子どもが役割を果たすことができる人との交流・出会いの場づくりが大切です。地域での子育てについて、一般の人たちがイニシ

アチブ(発意・起業)をとる機会を積極的に与えて欲しいものです。

子どもの深刻な状況を踏まえ、問題を解決する当事者は学校を含め、多様に存在する社会を展望することが大切です。

#### パネルディスカッション



続いてパネルディスカッションに入りました。講師の末本誠さんをコーディネーターとしてお願いし、ほんわかサロン主宰藤原あやのさん、蓮池小学校PTA会長田中一吉さん、播磨小学校校長藤原暁美さん、播磨町体育指導委員扇谷一徳さんがパネリストとして、それぞれの立場から提言があり、討論が展開されました。

### 各パネリストの意見



ほんわかサロン主宰 藤原 あやのさん

藤原あやのさん 高齢者の人たちが幼稚園児との交流をして、お互いを知り合うようになっていきます。

これからは、地域の公民館を開放して、子どもが大人から木工・囲碁などの技術や、地域の歴史・昔の生活などを教わるといった交流活動をしてほしいです。こうした活動を通してお互いが親しくなると、地域の行事にも参加しやすくなります。

また、高齢者の方と若い人たちが一緒に集えるサロンを開いて子育ての話をしたり、子守りをしてもらったりしながら交流することも考えられます。

さらに、技術や知識を持った人の一覧表をつくって、学校でも利用してもらいたいと思います。



蓮池小学校PTA会長 田中 一吉さん

田中一吉さん 学校週五日制が始まって家庭がどう変わったか十家族に聞いてみました。

子どもは、家庭や友人・地域の人の時間を増やしたい、休日には、野外活動や家事手伝い、スポーツなどをしたいと考えています。高学年の家庭では、土曜日子どもだけで過ごす家庭もある。行政や地域が行う行事に参加したいと思っている方は半数ほど、といった回答を得ました。

家庭の課題としては、子どもに家庭の中で何か一つでも課題を与えることです。このことが家族の一員であることを学ぶことになります。また、家族旅行などを子どもと一緒に計画したり、親子で清掃活動に積極的に参加したいものです。

家庭からの要望としては、休日の学校開放を積極的に進めること、若い世代の人を地域活動に取り込むこと、安心して子どもを預けられる施設を充実することも必要だと考えます。



播磨小学校長 藤原 暁美さん

藤原暁美さん 学校・家庭・地域の連携で大切なことは、「同じ目的を持ち」「協力しあう」ことです。

本校では、保護者や地域の方々と連携を深めるために、より開かれた学校を目指して、学校だより、学年だより、ホームページなどで本校の目指す教育や子どもたちの様子を発信しています。また、地域の方々にゲストティーチャーとして招いたり、子どもたちが地域へ出かけて地域の方から学ぶなど、双方向の教育を推進しています。

さらに、PTA行事と町の行事をリンクさせる取り組みとして、PTA行事で「スポーツクラブ21はりま」のみなさんのご指導のもと、親子クオリティーを楽しみ、夏まつりの大会に親子で多数参加しました。

これからも一層、地域に開かれた学校づくりを目指して家庭や地域との連携を深める中で、「子どもたちは社会の宝」を合言葉に、子どもたちの個性を大切に、道徳性・社会性・ボランティア精神などを育て、ふるさとを誇りに思える体験ができるよう支援していくことが大切だと考えます。



播磨町体育指導委員 扇谷 一徳さん

扇谷一徳さん 二十一世紀の課題は、豊かさの実感できるゆとりのある生活の実現であり、物より心の豊かさ求められます。このような状況の中で、スポーツの果たす役割は大きいです。

特に「ふれあい町民運動会」は、世代間を超えてみんなが楽しめる運動会です。また、子どもから大人まで参加できる、みんなが交流を深めてルールやマナーを養う「スポーツクラブ21はりま」とも連携をとり、一層多くの方々が交流を深めることができるスポーツ活動の企画・運営を充実していきたいものです。

さらに、週四回の小学生ジュニアバレーボールの指導を通じて、子どもたちの自主性を重んじたふれあい活動を続けるなど、町民全体の明るい生活の向上に貢献したいものです。